

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「さあ はじめよう」 教材名「おはなし ききたいな」

2 単元の目標

読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（〔知識及び技能〕(3)エ）

文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（C(1)オ）

読み聞かせでいろいろな本に親しみ、自分の経験と結び付けて感想をもつ学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ）	①「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ）	①読み聞かせでいろいろな本に親しみ、自分の経験と結び付けて感想をもつ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

読み聞かせでいろいろな本に親しみ、自分の経験と結び付けて感想をもつ。この教材では、人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

今回読む版の人物と出来事を絵カードや短い自作文で順に整理する。原文や教科書の挿絵は転載せず、教師の範読と教材を手元で確かめる。想定する難しさは、話を聞かずに知っている別の版の出来事を混ぜる、よい子になる話としてまとめる。評価では、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっているかを、人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。教師の選んだ本の読み聞かせを聞き、印象に残ったところを話す。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○教師の選んだ本の読み聞かせを聞き、印象に残ったところを話す。経験と似たところや違うところを伝え、友達の感想を聞く。選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(C(1)オ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「お話を聞いて、自分のしたことや見たことを思い出したところがありますか」 【めあて】読み聞かせでいろいろな本に親しみ、自分の経験と結び付けて感想をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・同じようなことが繰り返されるところが面白い。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「お話を聞いて、自分のしたことや見たことを思い出したところがありますか」 教師の選んだ本の読み聞かせを聞き、印象に残ったところを話す。経験と似たところや違うところを伝え、友達の感想を聞く。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・同じようなことが繰り返されるところが面白い。 ・次にどうなるか予想しながら聞いた。 ・友達と好きなところが違った。	今回読む版の人物と出来事を絵カードや短い自作文で順に整理する。原文や教科書の挿絵は転載せず、教師の範読と教材を手元で確かめる。 想定する難しさ：話を聞かずに知っている別の版の出来事を混ぜる、よい子になる話としてまとめる。 評価では、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっているかを、人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・友達と好きなところが違った。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「お話を聞いて、自分のしたことや見たことを思い出したところがありますか」。中央は、人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

